

芸術専門学群

School of Art and Design

- 学士（芸術学）
- Bachelor of Art and Design

人材養成目的 / Educational Objectives

学際的・国際的な視野と確かな学力を持った、美術及びデザインの専門家を養成することを目的とします。複雑化する社会の諸問題や美術・デザインに関する学問的な課題・要請に美術やデザインの手法で解決策を提案することができる人材を養成します。

養成する人材像	柔軟な発想力と豊かな表現力を備え、創造的な活力に満ちた専門家として、それぞれの専門性に応じた美術・デザインによる表現を通じて、社会に貢献できる人材。
卒業後の進路	卒業生の数だけ進路はあります。 卒業生は、大学院への進学、企業への就職、あるいは独立した作家、デザイナーなど、様々な分野において自己を実現していきます。その一方で、社会から学群・大学院へと、再教育のため大学を訪れる者もいます。 就職先の例（留学後や大学院修了者を含む） 作家・デザイナー、絵本作家、画家、各種デザイナー、建築家、書家、造形作家、彫刻家、都市計画家、プロデューサー、漫画家 他 企業就職の他、行政・自治体の職員、大学教員、学校教員、学芸員、研究員

- 学士（芸術学）
- Bachelor of Art and Design

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本専門学群の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（芸術学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 創造的表現力	芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現する能力。
	2. 問題解決能力	美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決する能力。
	3. 幅広い知識に基づく論理的思考力	学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的に思考する能力。
	4. 感性豊かなコミュニケーション能力	感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる能力。
	5. 自律的・社会的な創造活動のための基礎力	社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる能力。
学修成果の評価に関する方針	<p>卒業に必要な要件を満たした上で、最終的に「学位授与の方針」に掲げた知識・能力（コンピテンス）について、学修の成果を集約または発展させた卒業研究（「論文」および「作品」、もしくは「論文」）を中心にして授業や課外活動等の取組を含めて、以下の評価の観点により各14領域毎に領域の担当教員が評価を行います。</p> <p>【創造的表現力】</p> <p>①芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考をもとに表現できるか</p> <p>②専門的な学びを通じて得られた知識・技能を駆使して表現できるか</p> <p>【問題解決能力】</p> <p>①美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出しているか</p> <p>②社会における諸問題を自発的に見出しているか</p> <p>③習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決方法を提案して実践できているか</p> <p>【幅広い知識に基づく論理的思考力】</p> <p>①学際的な教育による知識・経験が反映されているか</p> <p>②美術・デザインにおける専門的な知識・経験が反映されているか</p> <p>③幅広い視野が思考に反映されているか</p> <p>④美術・デザインに関する事柄を外国語で発表できるか</p> <p>【感性豊かなコミュニケーション能力】</p> <p>①卒業制作展の運営に関わり、制作・研究の公开发表ができるか</p> <p>②美術・デザインについての発表や批評、ワークショップ等により、広く他者との交流を図れているか</p> <p>【自律的・社会的な創造活動のための基礎力】</p> <p>①専門的な学びを通じて独自の美意識を養うことができるか。</p> <p>②社会における芸術の意義と役割に対する理解を深めたか</p> <p>③美術・デザインの学びを通して作品・論文を完成させることができるか</p> <p>④学内外における展覧会、学会などで制作・研究の発表ができるか</p>	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（芸術学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p>教育課程の 編成方針</p>	<p>総合的な方針 総合大学における芸術教育の場という特色を活かし、広く学際的な知性（汎用智）と、深い専門能力（専門智）に芸術的感性を統合した統合智を醸成し、創造力に溢れた美術及びデザインの専門家を育成します。 美術・デザインの諸領域の基礎を横断的に履修する専門基礎科目と、専門科目によって芸術の専門的基盤を形成します。さらに、学年や専門分野の枠を超えた横断的科目を配置することによって感性豊かなコミュニケーション能力を養います。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 基礎と専門が統合されたカリキュラム 1・2年次では、多様な専門に繋がる基礎科目を必修とし、芸術に関する創造的表現力、問題解決能力、論理的思考力を柔軟に使いこなす基盤を養います。また、専門領域の基礎を学ぶと同時に学際的・国際的な講義・演習を選択的に履修することで専門的な知識の活用力を養います。 3年次以降に、諸領域におけるより高度な専門科目の講義や演習・実習を通じ、多様な諸課題に対する論理的思考力と横断的知識を活かす卓越した表現力や説得力を養い、卒業研究へと結びつけます。 - 卒業研究 4年間の集大成である卒業研究は学生の自立を保障するものです。卒業研究の指導では、学生自ら研究テーマを見出し、思考し、表現することにより、美術・デザインの専門家として自律的・社会的に創造活動を行う基礎力を養い、感性溢れる表現能力や感性を共有し豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーション能力を磨きます。基本的にすべての卒業研究は学外の公立美術館等で公開展示され、卒業研究作品集の公刊とともに社会の評価を仰ぎ、優秀作品は顕彰され大学に收藏されます。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学生の個性を尊重した教育 芸術教育において学生の個性は最大限に尊重されるべきものです。諸領域における専門教育は可能な限り少人数クラスとし、対話を通して個性を伸ばす指導を行います。 - 「現場」と繋がる授業 全学の学生・教員や市民と協働する学際的カリキュラムを配置し、企業、行政、美術館、教育現場等との協働や教育交流など、実務と直結した教育を実施し、時代に即した高いコラボレーション力と学際的な視野を持つ学生を育成します。 - 創造的表現力と論理的思考力の両立制作と論文執筆の二つを卒業要件とすることで、ものづくりの実践による創造的表現力と、客観的・論理的な思考方法を基盤とした確実な文章表現力の習得をめざします。 - 世界的視野に基づく創造力の育成 国際交流協定等に基づく交換留学や研究交流、作品交流展、国際インターンシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成します。 <p>Japan-Expert（学士）プログラムについて Japan-Expert(学士)プログラム日本芸術コースでは専用の集中日本語授業を開設します。学生は、入学後半年間は集中的に日本語を学び、専門科目等を受講できる日本語能力の向上を目指します。日本語教育は、文法・漢字・聞く・話す・読む・書くといった総合的な運用能力を高めるために、日本語教育専門の教員が担当します。また、「専門日本語」として、各コースの教員が担当する授業も開設しますので、集中日本語教育期間終了後には、各コースの専門科目の受講がスムーズになります。また、インターンシップを必修とすることで、現場力・実践力が身に付けられます。日本国内における就職も視野にいれつつ、外部機関とも連携を図りながら、各コースの専門に即した現場体験を行います。</p>
-----------------------	--

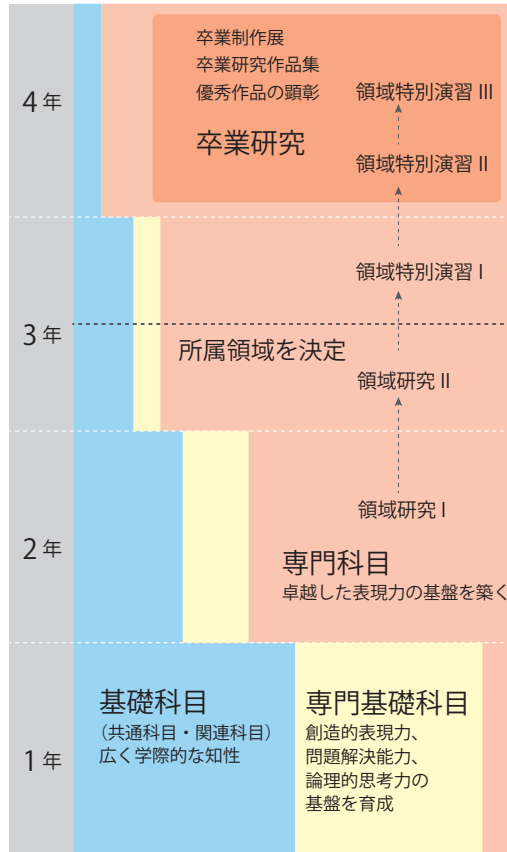
学修の方法
特色的な教育

卒業研究の公開展示や卒業研究作品集の公刊によって学外の評価を仰ぎます。

教育課程編成・実施の方針

学際的な知性と深い専門能力に芸術的感性を統合した創造的人材

汎用智と専門智による総合智の醸成



入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材

芸術を追求する熱意のある人材、社会的・国際的観点から創造活動にチャレンジする意欲のある人材、多領域に関わる知識や方法に基づいた美術・デザインによる表現によって社会に貢献する意欲のある人材を求めています。

入学者選抜方針	個別学力検査等前期日程	幅広い基礎学力と芸術に関する能力を総合的に評価します。
	個別学力検査等後期日程	基礎学力と芸術に関する基礎的な能力を総合的に評価します。
	推薦入試	高等学校（後期中等教育）における学習や活動の成果に加え、芸術に関する資質、意欲、能力を総合的に評価します。
	国際バカロレア特別入試	国際バカロレア資格を取得した者を対象として、本学の教育を受けるのに必要な基礎学力、問題発見・解決能力、行動力等の一般的能力と、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。
	外国学校経験者特別入試	第1種) 高等学校（後期中等教育）における学習・活動の成果や日本語能力に加え、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。 第2種) 高等学校（後期中等教育）における学習・活動の成果に加え、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。
	Japan-Expert（学士）プログラム	高等学校（後期中等教育）における学習の成果や日本語能力に加え、提出された書類や作品等も含め、芸術に関する資質や意欲を総合的に評価します。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	効果的な学修を支援するために以下の活動を行っています。 <ul style="list-style-type: none"> - 新入生オリエンテーション - カリキュラムガイダンス - 技術職員または事務（技術）補佐員による工房撮影スタジオでの撮影講習会 - 金属加工室、木材加工室、総合加工室において、技術職員による制作相談および機器の取り扱い方法等を含めた安全講習を随時行っています。
学生同士の交流機会	「筑波大学アートギャラリーT+」の活動：学生が主体となって運営するアートギャラリーT+では、自由な発表の場として、平面作品、立体作品、インスタレーション、映像作品など、さまざまなジャンルの作品を展示することができます。また、学生による企画展示も行われており、創造的な交流の場となっています。さらに、SNSやフリーペーパーを通じて情報発信も積極的に行っており、学生同士が互いの作品を展示・鑑賞することで、ピア効果の向上が期待されます。
教員との交流機会	芸術専門学群学生委員会、クラス連絡会、クラス担任、卒業研究指導教員によって丁寧に教育等に関する学生の意見集約を行い、全学組織のチューデントサポートセンター、保健管理センターなどと連携して、健康で有意義な学生生活がおくれるように支援しています。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育の質の保証

- 芸術専門学群カリキュラム委員会において学修成果の評価の結果に基づく点検を通して教育活動全体に対する改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、芸術専門学群の人材養成目的達成に向けた体制を強化します。
- 学内外の展覧会・研究会において積極的に作品や研究の発表を行うことを奨めています。その結果、学生は自身の力を認識し、教員は教育を客観視することができ、教育の質の向上につながっています。

教育改善への学生意見の反映

- 芸術ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を中心に、学生による授業評価アンケート、教授法や学生指導法の研究・研修を行い、継続的に教育方法を改善しています。

